

日本とスリランカの違いを伝えよう

氏 名：重兼 宏美

担当教科：全教科

時 間 数：4時間

学 校 名：山口市立良城小学校

実践教科：道徳の時間・国語科・生活科・総合的な学習の時間

対象学年：29名(1年2組)・144名(第6学年)

人 数：45人

【1】単元のテーマ・目標

世界の国の人々や文化に関心を持ち、文化の違いを理解し、自国や外国の文化の違いを認めようとする態度を養う。手紙を書くことを通じて、相手に気持ちを届けることを意識させ、主語と述語を間違いなく書くこと、敬体の文章で書くこと、句読点の打ち方に気をつけて書くことなど、書くことの基礎となる能力を育てることを大事にしたい。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国と日本の文化について共通点や相違点に気づき、それぞれのよさを発見したり、違いを認めたりしようとしている。
(イ) 思考・判断・表現	発見した秋を、絵や文で表現し、相手にわかりやすく伝えようとしている。
(ウ) 技能	スリランカと日本の生活の様子について、違いや特徴に気付いて、句読点の打ち方や、主語と述語の関係に注意して、丁寧な言葉を使って書いている。
(エ) 知識・理解	世界には、さまざまな言語や生活、文化があることを知り、日本での季節の変化を感じ取るとともに、それにともない自分たちの暮らしも変化してきていることに気付いている。

【3】単元設定の理由

＜児童観＞

児童にこれまでに外国に行ったことがあるか尋ねると、数名の挙手があり、行き先を尋ねると、「広島」「長崎」「宮島」と答え、「外国」が遠い場所だという認識はあってもその概念がはっきりしていない児童が多いことが分かった。また、子どもたちは廊下で顔を合わせるALTの先生のこと大好きで、英語で挨拶を交わしたり、サインをもらったり、手を触れ合ったりして積極的に関わっていく児童もいる。英語を習っている児童もあり、外国の言語は全て英語だと思っている児童もいる。最近、校内で東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーセレモニーが催され、リオオリンピック7人制ラグビー日本代表の桑井亜乃選手、山口県内の「ながとブルーエンジェルス」に所属する中美咲選手との出会いから、世界中の人とスポーツで繋がるができることを知り、オリンピックが日本で開催されて世界中の人が東京にやって来ること、オリンピックを観戦することなどに期待を寄せている。

<教材観>

本単元では、「外国」の1つである「スリランカ」の文化や生活を知ること、外国への関心を高めたい。他国の人々や文化に親しみをもつきっかけとなることを期待している。国際理解の第一歩として、まずは、スリランカと日本との違いを感じるところから、「違うって面白い」、「スリランカのことをもっと知りたい」、「他の国のことも知りたい」、と子どもたちの興味を世界に広げていきたい。

本時では、スリランカには四季がないという事情を知らせることで、改めて日本では、自然の様子や四季の変化があり、季節によって生活の様子が変わること、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気づき、郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつことができるようにしたい。

<指導観>

指導にあたって、児童がスリランカのイメージを掴みやすいように、視覚教材を十分に活用していく。教室には、スリランカコーナーを設置し、スリランカの国旗、民族衣装(サリー)やスリランカルピー、本(スリランカ出身の絵本作家の作品、世界の国のあいさつ)、地球儀を展示した。

スリランカと日本との違いばかりに目を向けるのではなく、類似点を取り上げることで、親しみをもつことができるようにしたい。そして、伝統と文化を尊重する態度を養いたい。

【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 (1年)	道徳の時間 「ぼくとシャオミン」 好きな食べ物や遊びに違いがあり、知らないことは教え合う面白さを感じ、他国の人々に親しみをもって積極的に関わっていこうとする心情を育てる	(1) 「1,300,000,000」13億と書かれた板書を見て、何を表しているか話し合う (2) 「ぼくとシャオミン」を読んで話し合う ① シャオミンの好きな食べ物が「さんざし」であることを知ったときの「ぼく」は、どんなことを思ったでしょう ・さんざしって何だろう。 ・おいしいのかな。 ② シャオミンの得意なことが「ティージェンズ」であることを知ったときの「ぼく」は、どんなことを思ったでしょう ・ティージェンズって何だろう。 ・難しそうだな。 ③ 言葉も好きな食べ物も得意なことも違う2人がなぜ仲良しなのでしょう (3) 他国の友だちができたらしめてみたいことを発表する (4) 「ぼくとときみ」を聴く	・さんざしの写真 ・ジェンズ ・NHKアニメーション「でこぼこフレンズ」主題歌「ぼくとときみ」
2 (1年)	国語科 「むかしばなしがいっぱい」 日本や外国の昔話を读んだり、読み聞かせを聞いたりして、興味をもって読みたい本を選び、読むことができる 絵本からスリランカの生活の様子を知ることができる	(1) めあてをつかむ ① 知っている日本の昔話を発表する ② 教科書（光村図書）P41～44の絵を見て日本と外国のお話の絵を見つける ③ 「この絵本はどこのお話でしょう」「夏休みに行ってきた国のお話です」 「きつねのホイティ」から、スリランカがどんな国が分かったことや考えたことを発表しよう	・絵本「きつねのホイティ」

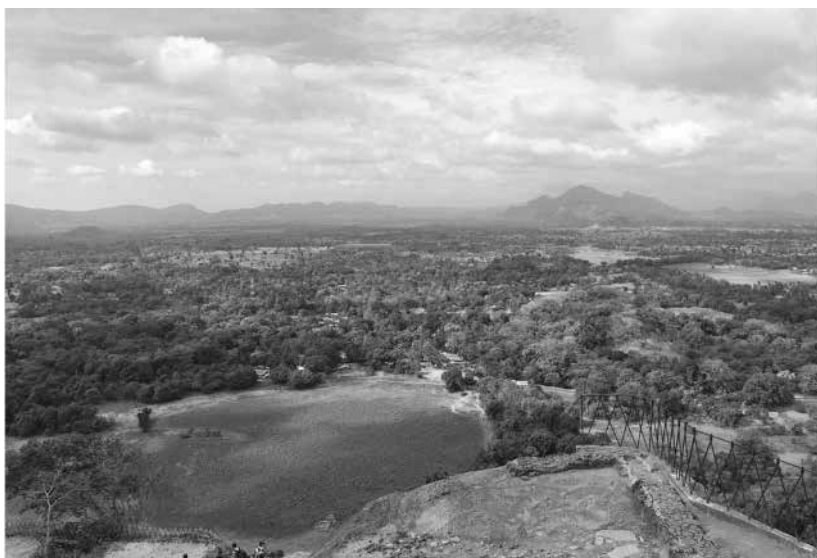
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		(2) 絵本「きつねのホイティ」の読み聞かせを聞き、スリランカについて分かったことや考えたことをワークシートに記入する。 (3) スリランカについて分かったことや考えたことを話し合う。 (4) 学習の振り返りをする。	
3 本時 (1年)	生活科 「日本のすてきを伝えよう」 諸感覚を通して見つけた季節の変化について話し合い、手紙を書くことを通して、見つけたことを共感・共有することができる	(1) スリランカの気候について知り、本時のめあてをつかむ (2) スリランカの人に伝えたい日本の「すてき」について話し合う (3) スリランカの人に手紙を書く (4) 学習の振り返りをする	・パワーポイント 【資料 1】 ・ワークシート 「アクシカちゃんへ」
4 (6年)	第6学年 総合的な学習の時間 「生き方を見つめる」 やりがいや使命感をもって仕事に打ち込んでいる人の話を聞き、生き方を学ぶとともに自分自身を見つめることができる	(1) 詩「そのこ」の朗読を聞く (2) パワーポイントを見て、スリランカについて知る (3) 国境を越えて世界で活躍する日本人がいることを知る (4) 青年海外協力隊の方のスリランカでの支援の具体から活動の思いについて考える	・パワーポイント ・絵本 「そのこ」

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1. スリランカの気候について知り、本時のめあてをつかむ。 T 夏休みにいったスリランカの写真を紹介します。 C フルーツジュースがおいしそうだね。 C ほかにどんなどうぶつがいたのかな。 C 大きな岩だね。	・スリランカのよさを感じることができるよう、パワーポイントを視覚教材として活用する。 ・スリランカと日本の気候を比べることで、日本には四季があることに改めて気づき、その素晴らしさや不思議さを感じることができるようにする。	パワーポイント
展開 (10分)	2. 見つけた秋を発表する。 T 秋にはどんなことがありますか。見つけたことや感じたことを発表しましょう。 C どんぐりをひろったよ。 C 葉っぱの色が変わったよ。 C ほったさつまいもをみんなでいっしょに食べたよ。	・「秋見つけ」に出かけたことを想起させ、日本の「すてき」を見つけることができるようにする。	

(20分)	3. お気に入りの秋を紹介する手紙を書く。 T 日本の季節のことが知りたい アクシカちゃんに伝えたいことを手紙に書きましょう。 C 何を書こうかな。 C 絵も描きたいな。 C 早くアクシカちゃんに手紙を届けてほしいな。	・書き始める前に、手紙は丁寧な言葉で書くことを確認し、文章を書き終えたら、間違いがないか自分で見直すように、声を掛ける。 ・机間指導を行いながら、児童が書いた振り返りを意図的に声に出して読み、書くことに困っている児童の手がかりとなるようにする。	
まとめ (10分)	4. 手紙に書いたことを発表し、見つけた秋を共有する。 T 手紙にどんなことを書いたか、発表しましょう。 C いろいろな秋を見つけているな。 C 自分の手紙と似ているな。	・全体で発表する前に、隣の席の人に書いた手紙を読み合い、自信をもって全体での発表ができるようにする。 ・見つけた秋について、児童同士で共有する。	

【授業実践の様子】



使用した写真

【6】 本時の振り返り

児童は、日本には四季があるが、スリランカにはそれがないということを知り、驚いていた。当たり前のように感じていた四季が、日本の魅力であると気付くことができたのではないだろうか。

そして、スリランカに住むアクシカちゃんに日本の四季の素晴らしさを伝える手紙を書きたい、という気持ちをもって意欲的に学習に参加していた。

日本の四季を改めて思い浮かべ、四季折々ならではの景色や特徴を捉えて、全ての児童が伝えたい季節とその事柄を決め、手紙を書くことができた。中には、何を書くかじっくりと考え、書き始めるまでに時間を要し、授業の時間内に手紙が仕上がらない児童もいたが、翌日にアクシカちゃんへの手紙の続きが書きたい、と自分から取り組もうとする姿が見られた。

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなど、これまでの生活体験から、それぞれの季節の違いや特徴を見付け、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることについて、日本に来たことがないアクシカちゃんに知らせるという必要感が、主体的な学習に繋がっていた。

児童同士で手紙に書いたことを伝え合う時間まで確保できれば、より対話的で深い学びになっただろう。限られた時間の中で何をねらい、学習活動の内容を厳選していくことがこれからの課題である。

【アクシカちゃんへの手紙】





日本には、ふゆという季節
があります。ふゆはゆきというもの
がふります。ゆきがふるといえ
のやねが、ゆきでいっぱいにな
ります。



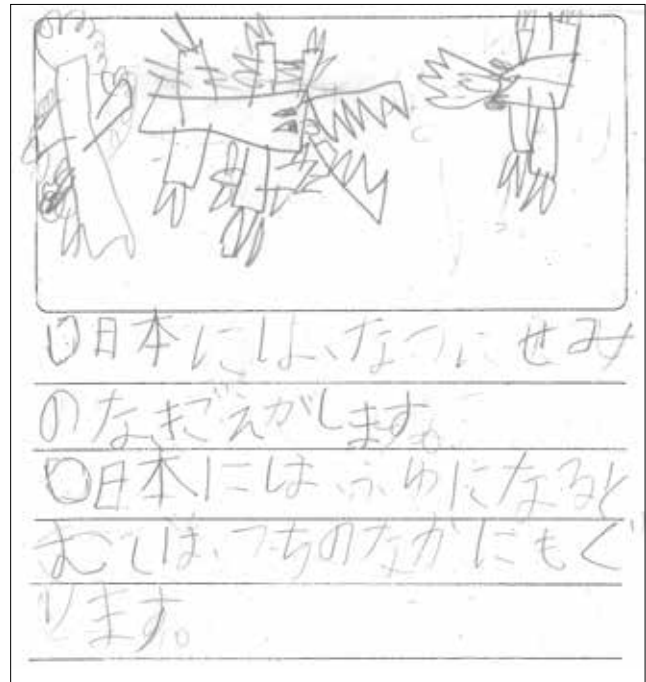
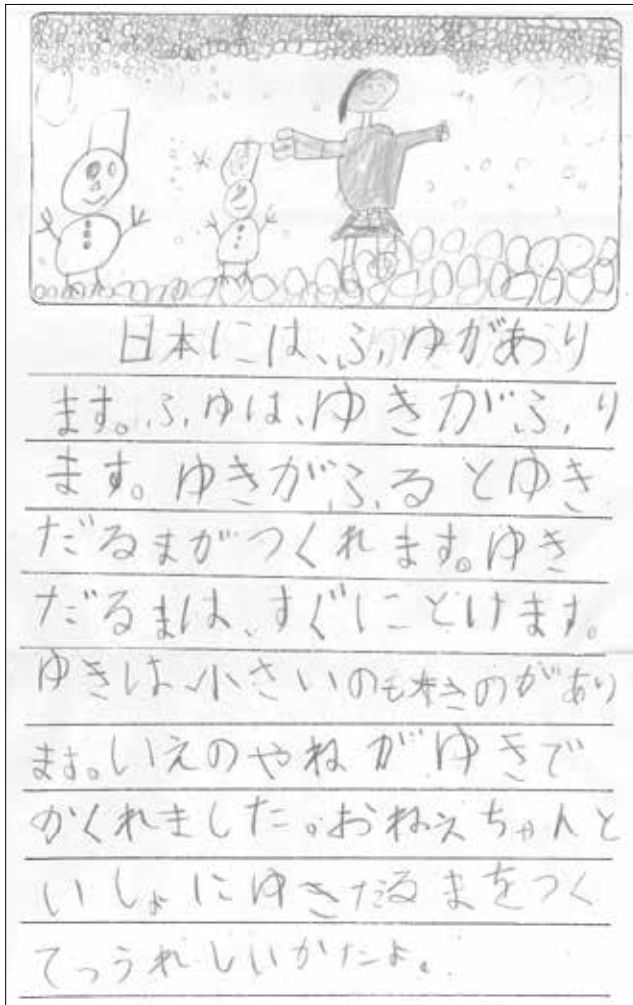
日本にはあきがあり
ます。日本のあきはははきれいで
いろいろないろのははがわ
ります。あとあきのむしはいろ
はいろいろあります。



日本には、ふゆという季節
があります。ゆきというもの
がふります。つめたいで
す。ふゆにはおなごがそでをき
ます。



日本には、あきがあります。
なつはははがみどりだけと
あきになるとははのいろがかわり
ます。ははのいろはいろいろな
いろがあります。



【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

スリランカコーナーを設置し、児童の手に触れることができるようにしたところ、喜んで民族衣装（サリー）を身に付ける児童、自分から国旗やスリランカの絵本を手にする児童の姿が見られた。また、家庭で見たテレビ番組でスリランカのことを放送されていたことを積極的に知らせる児童もあり、外国に興味をもち、スリランカという一つの国に親しみを感じている様子である。



スリランカコーナー

【途上国・異文化への意識の変容】

<授業前>

- ・知らないという児童が多い。
- ・外国が「遠い」という認識はあるが、日本国内の外出でも同じ「遠い」という認識であり、外国という概念が掴めていない。

- ・外国語＝英語だと思っている。

<授業後>

外国に行きたい（13名）

- ・行ったことがないから。
- ・名物を食べるため。
- ・外国のことを知りたいから。
- ・いろいろなものを見たい。
- ・いろいろな人と友達になりたい。
- ・日本にはいない虫を捕まえたい。

【8】自己評価

1. 苦労した点

スリランカへ出発する前から、滞在中、そして、帰国後もずっと考えていたことは、子どもたちの発達段階に応じて、何をどのように伝えることができるかということである。スリランカで見たこと、感じたこと、経験したことが多くあり、その全てを伝えることはとてもできない。授業時間の確保と内容の選定、伝える情報の厳選が必要である。

2. 改善点

実際に私が目にしたことは、スリランカのほんの一部である。全てはまず知ることから始まるので、自分自身が世界の現状にアンテナを張っておく必要がある。そして、子どもに何かを伝える際には、主観的で偏ったイメージをもたせないように注意しなければならない。

授業実践をするにあたり、事前に子どもに何を伝えるかを熟考し、どのような実践をしたいか具体的なイメージをもつことができていたら、スリランカ滞在中に、必要な情報や、写真や動画、現地で得る教材など、より効果的に準備ができたのではないかと反省している。

3. 成果が出た点

児童はスリランカに大変興味を示し、親しみをもつようになった。また、スリランカという一つの国の文化を知ることで、世界には日本以外の国があり、さまざまな人がいるということに気付くことができた。

文化の違いを否定的に捉えるのではなく、自分たちとは違う文化の中で生活している人がいるということを受け止めている。

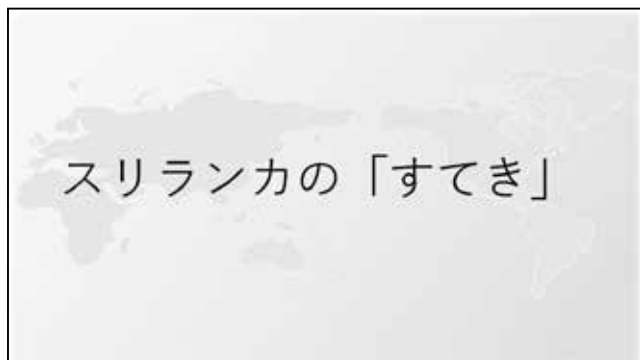
4. 備考

発達段階に応じて、伝えることができる内容は異なる。担任をしているのは1年生だが、6年生に向けて授業をする時間を得ることができ、実践の幅が広がった。自己の生き方を見つめていく段階の子どもたちに、世界で活躍している日本人の紹介ができたことは、刺激になったのではないと思う。

【参考資料】

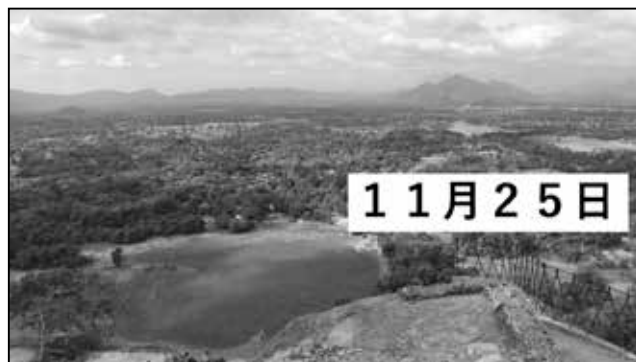
<書籍>

- ・絵本「きつねのホイティ」「かさどろぼう」（シビル・ウェッタシンハ）
- ・絵本「そのこ」（詩：谷川俊太郎）
- ・絵本「スリランカ孤児院建設プロジェクト応援ブック『南の島のプルワン』」（非営利団体スプートニクインターナショナルジャパン）

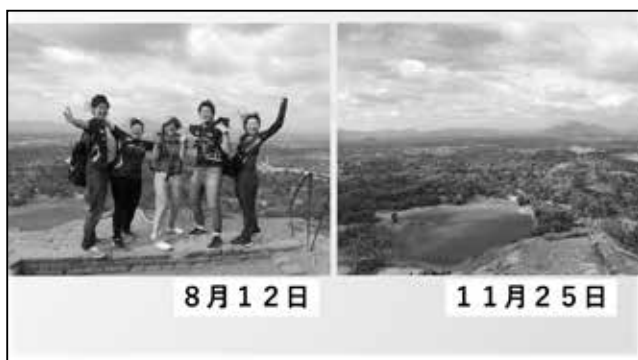


11月25日

シーギリヤ・ロックにのぼった
おともだちが、しゃしんをおくって
くれました。



11月25日



8月12日

11月25日



8月12日

11月25日

けしきがほとんどかわっていない

スリランカには、
「はる」「あき」「ふゆ」がありま
せん。

つまり、きせつは
ずっと「**なつ**」です。



アクシカちゃん

めあて アクシカちゃんににほんの
「すてき」をつたえよう。



にほんの きせつの
ことを おしえてほしい!



ස්තුතියි

『働く』 現在・未来を見つめて

教師海外研修～スリランカ～
平成30年8月9日～18日

山口市立良城小学校
重 兼 宏 美

世界とつながる日本
『食』・『物』・『人』

広い視野をもつ
異なる文化をもった人々と共に生きる

百聞は一見に如かず

スリランカ社会民主主義共和国

首都：スリジャヤワルダナプラコッテ



1. スリランカの概要

- 人口：2103万人（2016年）
- 面積：65610km²
- 多民族・多宗教国家
 - ★シンハラ人：75%
 - ★タミル人：15%
 - ★ムーア人：9%
 - *仏教：70%
 - *ヒンドゥー教：12%
 - *キリスト教：8%
 - *イスラム教：8%
- 産業：縫製業、農業（紅茶、ゴムココナッツ、米作）
- 外交：非同盟中立、インド・中国・日本との関係を重視



スリランカ社会民主主義共和国

ශ්‍රී ලංකා ප්‍රජාතාන්ත්‍රික සමාජවාදී ජනරජය

シンハラ語

இலங்கை சனநாயக சோஷலிசக் குடியரசு

タミル語



訪問先：Ishipathana College

○国立男子校
→1～13年生1200名

○日本の5Sの導入
(整理・整とん・清掃
・清潔・しつけ)

○日本語コースもあり

○4つの宗教の生徒



訪問先：Ishipathana College

・世界の中の日本 ～ 5 S、第二外国語としての日本語～



整理	unnecessary物を捨てる
整頓	置き場所を決め表示する
清掃	きれいに掃除する
清潔	整理・整頓・清掃を維持する
躰	職場のルールを守る



○親日家で何度も来日
○広島 平和記念資料館訪問
○皇太子ご夫妻(今の天皇皇后両陛下)をはじめ多くの日本人をスリランカに招いた。

○ジャヤワルダナ元大統領

・1951年
サンフランシスコ講和会議で日本を擁護する演説を行った。
★日本の占領を解き、独立を回復させるべき
★日本に対する賠償請求権の放棄
「憎しみは憎しみをもって止まず、愛をもってのみ止む」
多くの国々が称賛し、1952年4月28日、日本を独立に導いた。

ジャヤワルダナ氏は日本の恩人

何事も、まずは
知ることが大切。

○発展途上国



○発展途上国

スリランカと日本の関係

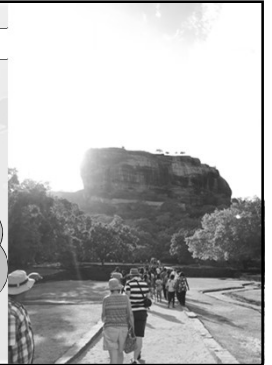


【世界遺産】シーギリヤ・ロック

《日本との関わり》

- 博物館建設と運営支援
- 遺跡周辺のインフラ整備
- 観光振興

- ・無償資金協力
- ・有償資金協力
- ・技術協力
- ・青年海外協力隊派遣
- ・ODAの利用



○発展途上国

2011年 東北関東大震災

- 8200万円の義援金
- 特産の紅茶300万個 寄贈

○スリランカで出会った青年海外協力隊員



訪問先：Mith sewana 活動視察（尾崎隊員）



- 学齢期から成人までの知的障害のある女性を対象とした西部州管轄の入所施設における尾崎JVの活動視察
- 尾崎隊員の役割～生活改善の支援
- 生活の実際
- 入所者との交流

8 / 10

訪問先：Mith sewana 活動視察（尾崎隊員）

感想・課題

- ・軽度→特別支援学級へ、就労
- ・重度（身辺自立不可）→一日中施設で過ごす



訪問先：Mith sewana 活動視察（尾崎隊員）

- ・インクルーシブ教育の実現に向けて
- ・障害による不平等をなくすためには？



8 / 11

訪問先：ボーガンバラグラウンド（菊池隊員）

視察概要

- ・JOCV菊池隊員(体育)／伊藤隊員(ラグビー)活動視察

→キャンディのボーガンバラグラウンドで活動

< 菊池隊員 >

→5歳から20歳の男女選手を対象とした

陸上の合同練習を指導

< 伊藤隊員 >

→12歳から20歳の男子にラグビーを指導



8 / 11

訪問先：ボーガンバラグラウンド（菊池隊員）

- ・スポーツとお金
- 入場料20ルピー
- 貧富の差を感じた
- ・専門性
- 設備の不足(道具、種目の数)
- ・働き方
- 隊員:望んでいた現場ではないが、できることをとにか
- く一生懸命に
- 現地で働く先生:学校の先生のボランティアもいれば、
- お金をもらっている人もいる



訪問先：ボーガンバラグラウンド（菊池隊員）



8 / 14

訪問先：マータレー保健所視察（関根隊員）

★生活習慣病予防のための啓発活動



- ①アレキサンドラ医師と上手く連携
 - ②学校関係者を集めたセミナーや学校での子どもたち向けの話
- ※日本と比較しながら話を進める！

8 / 14

訪問先：マータレー保健所視察（関根隊員）

感想

- 個人の価値観を尊重した保健指導の大切さ
- 子どもへの指導

+

先生たちへの指導（持続可能性）

- 参画意識を高める工夫

課題

- 長年の生活習慣を変えることの難しさ（文化的な側面）
 - 意識の持続と全体への周知の難しさ
- ⇒SDGs：ゴール3が課題



8 / 16

訪問先：カラディヤナ廃棄物処理場（金地隊員）



- 1日500トンのゴミが処理場に運び込まれる
- ゴミ処理発電のための施設を建設中
- 生ゴミの堆肥化に取り組む
- JICAや日本の中小企業の技術協力（機械の導入）
- 青年海外協力隊の派遣（金地隊員）



訪問先：NGO視察（PWJ）/ホームビジット

- 日本のNGO（peace winds JAPAN）による復興支援事業
- 内戦終結後のタミル人、ムスリム人の再定住を目指す
- 牛乳回収所の視察

<PWJ：川瀬さん(左)>

<PWJ：前田さん(中)>

<JICA職員：大原隊員(右)>



8 / 13

訪問先：NGO視察（PWJ）/ホームビジット

- 再定住の家の様子
- カレー調理体験
- 内戦からの復興の話







8/13

訪問先：NGO視察（PWJ）/ホームビジット

○内戦 タミル人、シンハラ人、ムスリム人

○民族の共存

○支援する側の考えや願い

・支援はいつか終わらなければならない

・付加価値をつける

・支援慣れ

・“Our market, our product.”

～アワーマーケットアワープロダクト～

8/13

訪問先：NGO視察（PWJ）/ホームビジット

町中にあった建物

→壁に銃弾の跡があるのが分かる





8/15

訪問先：中小企業連携事業（すららネット）

視察概要

○JICA、日本企業、女性銀行の協力

○教師のレベルに依存しない教育を目指す

○個別支援学習

○スリランカで600人の利用



8/15

訪問先：中小企業連携事業（すららネット）

○女性の雇用拡大につながっている

○ICTの使用はスリランカの実状に合っているのか

⇒SDGs：4，5，8が課題





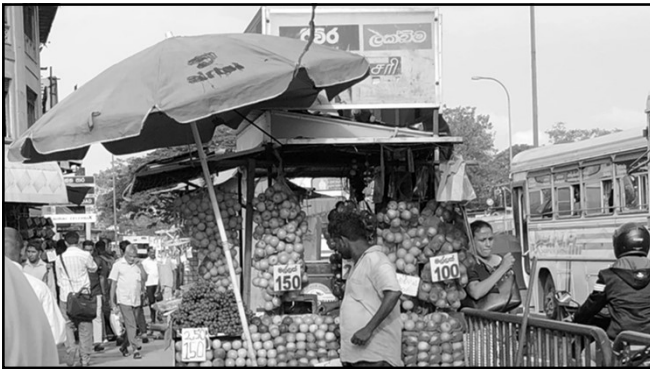


8/15

訪問先：中小企業連携事業（すららネット）

○世界の人々の生活

○ジェンダー教育（女性の権利について）





ස්තූතියි

ご静聴ありがとうございました！